

# 第16回市民活動団体交流会

## 2班 グループワーク 議事録

期日：H30年6月8日（金） 14：50～15：45

2班 出席者：手島、向井、谷上、宮脇、東留、盛岡、赤瀬係長（社会福祉協議会）  
《いずれも敬称略》 （ファシリテーター／支援センター：日野、針田）

### テーマ「生活支援サービスを広げるためにいかに取り組むか」

2班のグループワークでは生活支援サービスの代表的なものとして、見守り支援と家事支援の2つを取り上げて、どのような取り組みがあるのか、どのように取り組んだらいいのかについて意見交換を行った。（提起された意見は下記の通り）

#### 見守り支援について

- ・日常での声掛けが大事。（隣近所や老人会仲間とで）
- ・近所の人とのつながりで、情報を得るようにしている。
- ・一人暮らし以外でも近所で着になる方や家族の声を聴いてくれる体制作りが必要。
- ・気になる人について地域から何らかの情報収集が出来ないのだろうか。
- ・何についてもいえるが、できる人が、できる時に、できるだけやっていくのが基本。
- ・義務としてではなく、隣の人さがさりげなく見守るといったやり方が望ましい。
- ・老人だけや小学生だけでなく、学童についても見守り支援が必要ではないか。
- ・学童、児童の見守りでは、地域在住者の中から選任者を作ったらどうか。
- ・民生委員はもう手一杯で動けない状態にある。

#### 家事支援について

- ・ボランティアのできる範囲内でやったらいいと思う。
- ・元気な高齢者に買い物支援を依頼するのがいい。
- ・支援には各種団体に入って行って仕組みや活動内容を知ることが大事。
- ・支援対象となる当事者から具体的な何をしてほしいか要望を聞いてみるべき。
- ・外出支援では、ワンコインタクシーも考えられる。
- ・シルバー人材センターをもっと利用したらいいのでは。軽度の支援は人材センター。
- ・シルバー人材センターの仕事の内容、取り組みを考え直す必要があるのでは。
- ・支援が必要な人と支援してもいいよというボランティアを結びつける仕組みが必要、支援センターでそうした機能をやらしてもらえたらいいと思う。
- ・支援のためのボランティアグループを立ち上げたらいいのでは。
- ・これからの社会では無償は無理、有償をベースに考える必要がある。
- ・高齢者が集まって、支援のための企業を作る（企業化）ことも考えたらどうか。
- ・コミュニティビジネスを実現させよう。

以上

文責：支援センター日野